

会 議 録

会 議 名	平成29年度第3回青少年問題協議会専門委員会		
事 務 局 (担 当 課)	児童青少年課		
開 催 日 時	平成30年2月2日(金) 午前10時～午前11時38分		
開 催 場 所	小金井市市役所第2庁舎801会議室		
出 席 者	委 員	高橋委員長、富士道副委員長、佐野委員、黒須委員、大澤委員、櫻井委員、古源委員、小山委員、羽田委員	
	そ の 他	欠席：倉持委員、田原委員	
	事 務 局	伏見児童青少年課長、田中児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍 聴 者 数	0
傍聴の不可・一部不可の場合はその理由			
会 議 次 第	1 開 会 2 議 題 (1) 専門委員会による調査、協議のテーマについて (2) その他 3 閉 会		
主な発言の要旨・会議結果	<p>「子どもの居場所に関するアンケート(案)」について事前送付された事務局たたき台を元に、アンケートを作成、内容修正、内容を行った。内容は「放課後の様子」「生活習慣全般」「インターネット」「放課後の生活での希望・認識」の4つとし、自由記載2問を含む21問とした。</p> <p>アンケートの実施方法については、①調査方法は前回アンケート調査同様の抽出とし、時期は7月、子ども(小学生・中学生)・保護者同時に実施する。②調査によって、保護者と子どもの認識の違いを調べ、青少年問題協議会としてのメッセージを加えて、保護者に対して周知・啓発を行う。③啓発はリーフレットの作成・配布により行う、の3点を、専門委員会で作成した「アンケート(案)」と共に、3月開催の本体会議で専門委員長より報告することとした。</p>		
提 出 資 料	平成29年度第3回小金井市青少年問題協議会専門委員会 次第 「子どもの居場所」に関するアンケート案(事務局たたき台：中学生用)		
その他配付物	資料 前回、提案されたテーマとアンケート手法について		
伏見児童青少年課長	<p>それでは、定刻になりましたので、ただいまから始めさせていただきます。皆さん、おはようございます。児童青少年課長、伏見でございます。よろしく願いいたします。本日はお忙しい中、また、お足元の悪い中、青少年問題協議会専門委員会のほうにお集まりいただき、ありがとうございます。本日、ご欠席の連絡を田原委員、倉持委員からいただいております。それでは初めに、事務局から資料の説明させていただきます。</p>		

<p>田中児童青少年 係長</p>	<p>おはようございます。児童青少年係、田中です。議題に入ります前に、本日の配付物の確認をさせていただきます。本日の次第が1部、それと前回の皆様のご意見や類似アンケート等を参考にし、また、校長会や育成6地区連合会からのご意見も一部反映させましたアンケートのたたき台の案1部、以上でございます。</p> <p>校長会や健全育成からのご意見の部分につきましては、後々各委員のほうからご発言をいただく部分もあるかと存じますが、まずはたたき台としてご活用いただければということで、資料にしてございます。資料のご不足等ございましたら、事務局までお申しつけください。よろしく願いいたします。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>おはようございます。小金井市の高橋です。マスクをしていますが、インフルエンザにかかっているわけではありません。今、学校、学級閉鎖がピークでして、今週の頭から学校ではピークがきていまして、きのうぐらいから落ちついてきたかなという感じですが、私たち教員側、風邪を引かないようにということで、防止の意味を込めてマスクをしています。また学校のほうは雪の対応で、今年2回目になりますが、ばたばたしておりまして、ただ子どもたちは通常どおり学校に登校していることで、本当によかったなと思っています。</p> <p>きょうは、またアンケートの内容について、皆さんと協議していくこととなりますが、よろしくお願ひします。では着座で進めさせていただきます。資料は大丈夫ですか。では、資料を見ながらということになります。</p> <p>まず、前回の会議ですが、今期の専門委員による調査、協議テーマの案が、「子どもの居場所」ということになりまして、また、あわせて意見が多かった子どもの夢ですね。これは例えば主体性や自己決定、子どもと大人の関係、さらにSNS等への対策についてアンケートの設問中に一部含めるということで対応することにいたしました。お手元にあるアンケートはそのような構成になっております。</p> <p>また、アンケートは市内公立小中学校2校において、児童、小学校から、小学校では4年生から6年生、生徒、中学校では1年生から3年生と、その保護者を対象に各学年1クラスを抽出して実施することとなり、前回よりも1学年対象を増やすということになります。これも前回までの会議で確認をしてきたところだと思います。</p> <p>ただし、アンケート用紙については、前回よりも対象数が増えていますので、前回の残りの用紙も使用しないと足りないということになりますので、本日配付された事務局のたたき台と同じ用紙を使わざるを得ない、という状況になりました。これもたしか前回、皆様に確認しました。</p> <p>事務局たたき台については、前回の皆様のご発言に、類似のアンケートの項目、また、先ほど事務局から話がありましたが、校長会や青少年健全</p>

	<p>育成地区委員会の皆様からのいただいたご意見も取り入れられているということになります。</p> <p>まず、この後議論に移りますが、議論の前にアンケートの案を皆さんでお読みいただければと思います。アンケートはございますよね。一応、ざっと見ていきますと、左端に項目が出ています。放課後の現状、生活習慣全般、インターネット利用、放課後の生活での希望・確認、その項目ごとに質問が出ています。では、このあと5分ぐらい時間をとりますので、皆さん一度読んでいただければと思います。お願いします。</p> <p>(資料黙読 5分)</p>
高橋委員長	<p>5分ほどたったのですが、一通りは見ていただきましたでしょうか。では、ちょっと確認することがありますので、話をしたいと思います。</p> <p>まず、このアンケートのとり方についてなんですけど、今までも事務局のほうから話があったんですが、保護者と子どもに同じ質問をぶつけて差を見る手法、これは前回までと同じ方法です。それで小学生、中学生、保護者の3種類に展開する形でよいかということですが、いかがでしょうか、まずアンケートのとり方です。前回と同じとり方でよろしいですか。はい。では、そのとり方でいきたいと思います。</p> <p>それから、先ほど冒頭でも話をしましたが、前回協議した後、追加されている内容がありますので、その追加部分について説明をさせていただければと思います。</p> <p>では、初めに校長会のほうからよろしいですか。では、校長会のほうから出た意見について、私のほうで説明をいたします。このアンケートを校長会で小学校と中学校14校の校長先生で見ました。校長会として少しいこうところがあるといいんじゃないかという案を出させていただいて、事務局のほうで追加をしてもらいました。</p> <p>まず、1つ目なんですけど、このアンケート項目の12番のところになります。今、子どもたちの状況を考えたときに、ネット関連の使用機器に関する質問で、通信機能が実は携帯電話だけではなくて、携帯ゲーム機にもある、携帯ゲーム機で実はもう通信をしているという実態がありますので、そのことから、ネットにつながるゲーム機というのを項目追加しています。それがまず1つ目です。ネットにつながるゲーム機ということですね。</p> <p>それから2つ目ですが、これは24番のところになります。同じく、外で通信機能付きのゲーム機で遊ぶ子どもの実態調査ですね。児童館や図書館、公民館、公園などを追加できないかという話がありまして、直接ゲームありきの設問を入れるのは子どもの居場所というテーマですから、ちょっと設問上難しかったということで、事務局のほうと調整をさせていただいて、24番のような質問にしています。</p> <p>それから、3つ目ですが、これは18番になります。携帯、またスマホ</p>

	<p>を子どもに保護者が持たせる理由、メリットに関する考え方を問うという質問を追加しています。携帯・スマホなどを持つメリットは何ですかというようなこととなります。これが校長会からの内容の追加、修正というところとなります。</p> <p>それでは、続きまして健全育成地区委員会のほうから出たご意見で追加、修正した部分を佐野委員、お願いします。</p>
佐野委員	<p>先日、健全育成6地区連合会の会合がありまして、そこで意見が出ました。子どもが学校にいるときは学校で安全が守れる、放課後は児童館とか行って、そこにいれば安全を守れると。今の家庭は、割と親御さん、保護者の方が働いている方が多いので、家に帰っても1人のときがある、そういうときに子どもの安全をどうやって守ったらいいいのかを少し考えたほうがいいという意見が出ました。今回、この子どもの居場所に関するアンケートをとるので、その中に設問を設けていただいてアンケートをとっていただいたらどうかということ、お話をさせていただきました。事務局のほうで入れていただいたのは、番号ではどれですかね。</p>
田中児童青少年係長	<p>21番と22番です。</p>
佐野委員	<p>21と22に関連して、今お話ししたような内容について、設けさせていただけたらどうか、提案をさせていただきたいと思います。ご検討よろしくお願ひしたいと思います。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。今のところが追加、修正部分の内容になります。ここまでで何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。どうぞ。</p>
富士道副委員長	<p>8番なんです、「あなたは悩みがあるとき、誰かに相談していますか」。している、してないとなると、しているとなると、誰にしていると聞きたくなるので、その場合、①家族、②友達、③その他、④してないというふうにされたらいかがでしょうか。</p>
高橋委員長	<p>今、全体的な部分で、はい、どうぞ。</p>
富士道委員	<p>次に1点目は1番。「あなたが放課後、学校から帰ったとき、家に誰かいますか」というので、③の選択肢がわからないと書いてあるんですが、これは予想されるその背景、回答というのはどういうことを予想されるんでしょうか。家に帰った、あなたが帰ったときにいますかといってわからないというのはちょっと、よくわからないんですけど。本人が現認できない状況があるのかどうかのかなということなんです。自宅じゃないところに帰っているのかとか、いろんなことを考えてしまったんですが、一体帰ったときに誰かいますかってわからないというのは、何を想定しているのかちょっと、わかりません。もし必要であれば事務局からお答え願ひします。</p>

田中児童青少年係長	ここは、申しわけありません、ご指摘のとおりいる、いないということ自体への認識がない、ということをご想定して書いてしまっている選択肢でございまして。
富士道副委員長	まして、これ中学生ですから、中学生がいる、いないの認識がわからないって、ちょっと考えにくい。
田中児童青少年係長	これは中学生用ですので、そうですね、設問として確かにおっしゃるとおりだと思います。
高橋委員長	すいません。私のほうでちょっと説明が足りなかった部分もあるんですが、一応、小学生、中学生、保護者ということで、文言の内容については、子どもの発達段階、また保護者にあわせて質問の内容は変えるということなので、先日、事務局のほうから話は聞いています。なので、今のようなご意見をいただくと、中学生対象のときにはこの言い方はふさわしくないな、というのがわかるんで、そういう貴重なご意見いただくとありがたいです。では、どうぞ。
富士道副委員長	10番、11番なんですが、10番、「あなたは朝食を誰と食べていますか？」という質問で、選択肢で②友だち・知り合いと食べる、とあるんですね。これはおそらくあなたは、の前に、ふだんとか日常とか通常とかというキーワードが隠れていると思うんです。普通、つまり日曜日とか特別な日ではないときに朝御飯を友達・知り合いと食べるというのは、実際そんなにたくさん例があるのかどうか、その背景として予想とされることというのは、どんなことなのかちょっとお聞きしたい。これを入れた背景を教えてください。
田中児童青少年係長	これはおっしゃられるとおり、家の外で食べるというような現象が起こっているかどうか、というところでの選択肢として入れさせていただいております。
富士道副委員長	そうすると、その家庭では外で食べているということも当然あり得るわけだろうからということで、一応お聞きをしています。
田中児童青少年係長	そうですね。ほぼ回答はないだろう、とは思うのですがけれども、一応そういうこともありえるということで、選択肢に入れさせていただいている状態です。
富士道副委員長	もしそうであれば、まず家庭内という前提でくるなら①、③、家族と食べる、一人で食べる、その家庭の中で。次のジャンルとして、いわゆる外でというジャンル分けをしたほうが選択しやすいのかなと思いました。それから、当然11番も同じで、夕食を友達と、知り合いと、普通毎日食べているという、そうなのかも思ったんですけれど、いろいろな家庭がありますから、どうしても家庭でつからないから友達の家で食べてる、とかってあるのかもしれないですし、そうなればやはりジャンルとしてまず

	家庭内①、③、そして、次は外でという②という分け方をしたほうがいいのかなど思いました。次の項目に行ってもよいですか。
高橋委員長	では、次、お願いします。
富士道副委員長	12番ですが、「あなたは下記の機器を利用していますか？」ということで、選びなさいとありますが、④していない、もしくは持っていない。この場合は利用していますかという質問ですから、利用していないということをお返事した場合には、逆にいうと、13、14、15、16までは必要ない、回答する必要はないですね。ですから、そこはそういう形で記載をしていただいたほうがいいのかなど思いました。となれば、当然16の中で④選択肢、携帯電話・スマートフォンを持っていないということではなくていい、済むわけです。上のほうで利用していないわけですから、ただ、利用していないけど持っている、という場合もあるので、ということであれば残してもいいんですが、つまり、そこまでの回答の予想をされているのかどうかなんです、ここは。
田中児童青少年係長	インターネット関係につきましては、これは全質問をそのまま残させていただくということをお想定していない状態で、たたき台のほうをつくってございます。そのために、順番的にちょっとおかしい部分が生じているというところは、ご指摘のとおりだと思います。もし全問を残すのであれば、ご指摘いただきましたとおりの形で組みかえたほうがいと事務局としても思います。
富士道副委員長	それから、最後ですが、先ほどご意見もお聞きをしたんですが、21、22が非常に唐突というか、なぜここで突然地震の話が出てきたのかちょっと異質な感じがします。つまり、これは居場所の問題のアンケートをとって、しかもここは最後、放課後の生活での希望・認識を聞いているのに、突然ここで地震があったらどうするかというのは、ちょっと何か感じが違うなと思っています。 そうであれば、そういうような危機管理についての項目つくっておいた上で、そういうルールを知ってますか、例えば居場所と関係するならどこへ逃げたらいいのか。児童館、公園、公民館、図書館、一時避難所、学校とかそういう選択肢を設けるとか、つまりここで言っている質問している地震での対応、避難所等が、避難場所とか安全確保という趣旨とこれはちょっとニュアンスが違ってきている、ずれ込んでくる。したがって、アンケートをとっても結果、データとしては、ずれてしまうので、分析としてはあまりいいものは出てこないと思うんですが、いかがでしょうか。
田中児童青少年係長	はい。こちらについては、先ほどの青少年健全育成6地区連合会のほうで出たご意見の前段から、再度ご説明をさせていただければ、と思います。1月21日に開催された青少年健全育成6地区連合会で、放課後1人で自宅で過ごすお子さんについて、震災等の際の対策から抜け落ちているので

	<p>はないか、というご発言がありまして、そこから議論が進みました。そこで、さらにアンケートが近く青少年問題協議会でもあるので、居場所というところで、啓発のリーフレットの中に何かメッセージを載せられないかという趣旨のお話があり、その場合に想定される質問を入れた関係で、おっしゃられるとおりに設問としては、ずれてしまっているという状態になってございます。</p> <p>放課後の現状のほうの設問に関連して、こういったケースでお子さん一人のときに何かあった場合にどういう対応をとるか、そういうことを親子でお話をしていますか、というメッセージをリーフレットに今回載せるのであれば、という趣旨での入れ込みでございますので、アンケートの項目としては特に必要ないよ、ということであれば、それでよいのかなと事務局としても考えてございます。</p>
富士道副委員長	<p>もし載せるのであれば、この項目を一番上の放課後の現状に置いて、あなたは放課後、家で1人でいたときに、というような補足をつけると、あまり違和感がないかなとは思いますがね。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。ありがとうございます。</p>
高橋委員長	<p>以上ですか。はい。ありがとうございます。今、富士道委員のほうから話がありましたように、皆さんでこのアンケートの内容について、気がついたところがありましたら協議をしていきたいと思えます。</p> <p>前回の協議会でも出ていたんですが、この質問数上限が25ということなんですが、今までは20問程度でずっと進めてきてるんですね。やっぱり25問ということになると、子どもたちなんかにはしてみれば多いのかな、大人も多いのかなと。20問程度がいいのかなということになると、今、富士道委員のほうからあったように、ちょっと順番を変えたり、精査をしていくということも必要なかなと思っています。</p> <p>皆さんからその設問の数、それからあと、ジャンルの分け方、それからあと、この質問の文言について見えたことなど、どんどんお聞きをいただければと思います。</p> <p>きょうの段階でその質問の数ですとか取捨選択をして、20問ということであれば20問程度に皆さんで絞ればいいのかと思っております。</p> <p>次の方ありましたら、お願いします。</p>
佐野委員	<p>先ほど設問の10と11で、友だち・知り合いと食べるという項目でご意見がありましたが、これはきょうちょっと本を何冊か購入して、読んでいただきたいとお渡ししたんですけど、本屋さんに冊数がこれしかなかったもので。今、貧困ということで、要するに家でご飯を、食事がとれないのでボランティアでやっていらっしゃるところに行ってお飯を食べる、そういう子どもがだんだん増えているということが随分言われているので、</p>

	<p>小金井でそういうところがあって、そういうところに行っている子どもたちがいるのかなという、そういうことを私はアンケートでとるんじゃないのかな、と捉えたんですけれども。</p> <p>そうすると、そこに食事がうまく十分にとれない子どもたちが来て、一緒に食事をしているということではないかな、と捉えたんですが。なので、小金井の現状は私、よくわからないんですけど。</p>
小山委員	<p>店舗のフードコートには、それは夕飯なのかどうか、ちょっとわかりませんが、たまにたむろしているとか一緒に食べている子たちが、学生というのはいるといのは目撃したことがありますけれども、夕方。それは夕飯だったかどうかちょっとわからないですけども、そういう子がその設問の範囲の中に入るのかどうかちょっとわからないですけども、確かにそんなような子は見たことはあります。</p>
櫻井委員	<p>櫻井です。</p> <p>毎月第3水曜日の夕方、子ども食堂というのがございまして、NPOの「また明日」で、子どもや親も一緒に、かなり盛況らしいです。お手伝いに行っている方が友達にいますので。何かとっても子どもたちに喜ばれていると。月1回ですけどね。</p>
富士道副委員長	<p>1つの問題としては、普段なのか月1回なのか、スペシャルなのかとなると、非常にこれ全体として困っちゃう子どももいると思います。もう1つは、さっき申し上げたように、まず家庭内というジャンルで聞くのか、外でというジャンルで聞くのか、という聞き方をしないと、混乱するかな、という気がします。今、そういう形でのNPOさんが増えているいろいろなことをやっているのは事実だと思います。本当はその中身を掘りあげたいんですけど、ただ同時にこれは、非常に微妙な部分があるので、出すとき封筒に入れて封緘して出させるべきだと思います。非常に扱いとしては、問いたいけれども、どのような配慮をして行うか、封筒入れて厳封して発するの。そこはやっぱり配慮してあげないと、なかなかこれは人権上の問題も出てくるのかなという危惧があります。</p>
高橋委員長	<p>そうすると今アンケートの回収の仕方というところも出てきました。これはまたちょっとアンケートの項目が絞れた段階でまた皆さんで考えていただきたいなと思います。いかがでしょう。はい。黒須委員、どうぞ。</p>
黒須委員	<p>放課後の現状と一番下にある放課後の生活での希望・認識、ここを分けないで続けて放課後は放課後でいったほうが、何かあれ質問がないと思ったら下に続きが出てきたりという感じ、印象があるので、その放課後は放課後でまとめたほうがいいのかないかなと思いました。</p> <p>それから、前回の話し合いのときに、夢とか自己実現とかそういうこともいいんじゃないかという話も出ていましたので、今回、それは全然この項目にはないと思うので、1月20日でしたが、3小の学校公開に行っ</p>

	<p>たときに、4年生の授業で、二十歳のときの自分というのをみんなが発表していたんですね。それってすごい自分は何をしたいのかとか、自分は将来どんなふうに希望を持っているのかとか、そういうことをみんなの前で発表するというのがすごくいい授業だなと思ったんですね。だから、何かそういう項目をこのアンケートの中に取り入れられたらいいかなと思ったのと、あと、放課後子どもプランとかで今進められているので、各小学校いろいろ取り組んでいると思いますので、そういうことについて子どもたちはどう思っているのかということも聞きたいなと思いますし、私は、中学校でも絶対必要と思っていますので、もし学校内にそういうことが、そういう場所が、緑中ですと放課後カフェですけども、そういう場所があったらあなたは利用したいですかとか、そういう質問もあったらいいなと思います。</p>
高橋委員長	<p>今、黒須委員から3つ出てきましたけど、ちょっと事務局のほうにお聞きしてもいいですか。まず、1つ目、放課後のカテゴリーの項目です。放課後の現状と放課後の生活での希望・認識と、これは最初と最後で分かれているじゃないですか。その辺の意図についてと、夢実現は、これはたしか含んだ形で作っていると思うので、あと放課後子どもプランというものをまた新たにちょっと加えたらということですが、いかがですかね、事務局は。</p>
田中児童青少年係長	<p>まず1点目、分けた理由といたしましては、基本的には放課後の生活での希望の部分については、どちらかというとその夢実現等、要望等の部分について、ちょっとでも含まれているものとか、あとはそもそも、この会議上ではお話が出てなくて、類似のほかのアンケートの設問から引っ張ってきたものを加えた形状になってございます。この中から取捨をさせていただいて、上のほうに移していただくということも事務局としては想定した組み方になってございます。結果、ちょっとわかりにくい形になっておりますして申しわけございません。</p> <p>次に、ちょっと回答が重複してしまうのですけれども、夢実現等のことについてのアンケートの中身ですが、24と25ぐらいしか自由記載という形でお書きいただくしかないものなのかなと思ってございましたので、そこに網羅してしまっているような形になってございます。具体的にどういことを聞きたいか、というところで、もともとマークシートの形になっておりますので、細かい事業毎にそれぞれ挙げていくというような形で回答をいただいたとしても、最終的にリーフレットにまとめたときに結果を反映できないというところがございますので、そのような視点も含めてアンケートをお考えいただけると事務局としては助かるなと思ってございます。</p> <p>最後に、放課後子どもプランとの関係ということですが、そうすると放</p>

	<p>課後子どもプランがどういったものか、というところについてまで説明をしなければならぬという話に当然なってきます。この設問数で、プラス説明までという形になりますと、学校の特定のクラスにお願いするアンケートとして考えたとき、ちょっと現場の先生の負担が大き過ぎるのではないか、という考えもございます。以上です。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。黒須委員、よろしいですか。</p> <p>今のお話ですと、例えば放課後の現状と放課後の生活での希望・認識、この2つのものを1つにしてしまつて質問の流れをよくするとか、またはちょっと質問数を減らす、なんていうことはできるのかもしれない、と思つたんですけど。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ。</p>
古源委員	<p>古源です。6番の「あなたが『日中3時間以上、自由に過ごせる日』は月に何日ありますか？」というのは、これは休日を想定した設問なのかなと思つておりますが、ちょっと上が、この5番まで放課後の、ときている中で、この日中という表現に変わったところでちょっと唐突感があるかなと思うんです。休日、土日であれば、土日祝日のことであればそのように明記していただけたらいいのかなと思つました。</p> <p>次に14番の「あなたが携帯、スマホにのめり込んで以下のような悪影響がありましたか？」という質問なんですけれども、この、のめり込んでと悪影響という言葉で子どものほうはちょっと構えちゃうとか、いや、私はのめり込んでもないし、悪影響も受けていないというちょっと入っちゃうと、中学生なんか特にだと思つたんですけれども、もう少しこうしたらという代案はちょっと今思いつかないんですけれども、何か表現を少し考えていただけたらいいかなと思つました。</p> <p>それから、中学生用、小学生用、保護者用という3種類、同じ設問でつくっていただけるとのことなんですけれども、次回の全体会のほうでアンケートが提示されるということなんですけれども、それ以前に私たちがそれぞれの小学校、中学校、保護者向けのそのアンケート用紙を見せていただく機会があるのかなということも1つ、このアンケート作成の流れということで確認させていただきたいと思つました。</p> <p>自由筆記は非常に今までなくて、とてもいいのかなと思つました。そういう意味では、放課後の生活での希望についての、先ほど黒須委員から現状とくついたらどうか、というお話があつたのですけれども、私が思つたのは逆に、どうしたいですか、ということを書いて、何とかしてもらえるのかなというような、何かそういう子どもに期待感を持たせるような感じがして、これはこれでいいのかなと思つました。そういう中では、先ほど富士道委員がおっしゃつたような、21、22というのは少しこの、このブロックの思想としては内容的にはここではないのかな、という印象を持ちました。以上です。</p>

高橋委員長	ありがとうございます。皆さん、いかがですか、今の古源委員の。その6番の「日中3時間以上、自由に過ごせる日は」というのは、これは事務局のほうにお聞きしたほうがいいですかね。
田中児童青少年係長	これは前回のアンケートと全く同じ質問でございまして、居場所とも係わりがあるので差がどのように出るか、というところで入れたものでございます。
高橋委員長	前回と同じですね。それと、2つ目、文言の修正になってくるのかなと思うんですが、14番。「スマホにのめり込んで以下のような悪影響がありましたか?」。ここは確かにちょっと文言を変えたほうがいいのか。のめり込んでというの、ちょっと言葉としてどうなのかなんて……。
富士道副委員長	上の言葉を使ってしまって、スマホを利用している中で以下のような影響がどうだ、というふうにしてしまえばいいと思います。
高橋委員長	<p>そうですね。わかりやすいですね、すごく。じゃあ今の14番のところはよろしいですかね、そういうような方向で。細かいところですけど、スマホとスマートフォン、これは言葉が2種類出てきているんで、その辺も統一しておくといいのかなという気がします。</p> <p>それと、これは事務局に聞きますが、今日もんだ内容を反映したアンケートを、全体会の前に事前の確認はできるのかということなんです。</p>
田中児童青少年係長	<p>基本的に事務局のほうでおつくりしたものを、3月初旬までに皆様に送付させていただいて、ご確認いただくという流れになるかと思います。</p> <p>ただ、本日の議論の状況によりましては、そもそも本体会議に報告する専門委員会案で中学生用のベースのみをお示しして、「4月、5月の専門委員会で派生する小学生向け、保護者向けを作成します。」というご説明をさせていただく、ということもありえると思います。本日の進行度合いで、どこまでの案を作成して事前に皆様にお示しできるか、というところも変わってくるかと思います。</p>
高橋委員長	<p>よろしいですか。皆様からありますか。では、先ほど出ていた21番と22番ですが、ここは皆さんもいろいろお考えがおありではないかと思いますが、もしこれを入れるのであれば、放課後の現状に持っていったらいいという富士道委員の先ほど意見もありました。皆さんで確認をしていきたいと思うのですが、いかがでしょう。</p> <p>それと、その放課後の現状と放課後の生活での希望・認識の場所、最初と最後というのは、先ほど古源委員から、このままでもいいのではないかという意見があったのですが、黒須委員はくっつけたほうがいいのかという話で、その2つの部分について皆さんで確認しておきたいのですが、いかがですか。</p>

佐野委員	健全育成から意見が出た内容で申しわけないのですが、21、22、それから1番、要するに子どもが家に帰って誰もいなかった場合に、その子どもをどうやって守るかということが大きな意見だったと思うので、「あなたが放課後、学校から帰ったときに、家に誰かいますか？」ということで、1つは解決するのではないかなと思います。自分しかいないときにどううしますか、ということであれば、設問が1つ減るとい気はします。
高橋委員長	いかがでしょう。そうすると21番の質問が1番の質問と兼ねることになりますね。次に先ほど話がありました、何かあったときに家族でどうするか話し合っていますか、という設問ですが、いかがですか。これ、文言まである程度考えたほうがいいですか、それとも方向性だけで事務局に考えてもらえますか。
田中児童青少年係長	お示したたたき台の修正になりますので、文言まで会の中でご発言をいただけると、事務局としては助かります。
高橋委員長	それでは、1つずつやっていくしかないと思うのですが、21番については、1番の質問の中に含まれるということによろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	よろしいですか。では、22番について、先ほど富士道委員からもご意見いただきました。
富士道副委員長	要するに、放課後の現状を知るという位置に置くのであれば、冒頭に「あなたが放課後1人でいたとき」という言葉をつければ、そこはすっと入ると思います。つまり、あなたが放課後1人でいるときに、勉強なのか遊びなのか何なのか、かつ、こういう危機管理も必要ですよ、という伝え方をすれば、そんなに違和感はないのかなと思います。
高橋委員長	では、22番の質問については、放課後の現状の中に入れるということで、今言われた「あなたが放課後に」ということで、危機管理の視点を組み込む、ということにしたいと思います。よろしいですか。
小山委員	この表現、地震というのはどうされますか。
高橋委員長	どうしましょう。地震というのを入れたほうがいいのか、それとも何かあったときに、というようにまとめるのか。
小山委員	地震と限定するか、いろいろな非常時とか緊急時とか、最近、世の中何が起こるかわからないんで、想定したときに、自分で判断できるのか、家族でどういう相談をしているかも含めて、地震と限定しないほうがいいのかという気がするんです。表現をどうしたらいいかはわからないですけども。

富士道副委員長	<p>こういう場合は、例えば町が海岸沿いにある場合には津波というキーワードが入りますし、山岳地帯であれば崖崩れもそうですし、いろいろな危機管理の用語を入れるのですが、小金井の場合、入れ過ぎるとちょっと違和感がある。例えばここで、津波と言われても、えっとなりますし、崖崩れといっても、実際小金井の場合は幾つか大雨のときに指定される地域もあります。一般的な裏山が崩れるなどは、あまり認識がない。だから、地震など大きな災害という言葉にしてしまうといい、と思います。緊急時という、特に小学生だと緊急時って何なのかよくわからないし、中学生でも緊急時って何の緊急時、例えばJアラートでミサイル飛んで来たというの、確かに緊急時ですから、そこまで書くのもまた違う問題になります。地震以外にもう1つぐらいつけ加えると本当はいいですけど、そういう形で言葉を少し指定しながら、しかし、わざとぼやかしてイメージをつかませるほうが子どもは答えやすいのかな、という感じですね。</p>
高橋委員長	はい。どうですか。
小山委員	地震など災害時に、とかですね。
佐野委員	<p>地震とか災害という目に浮かぶものがあると思うんですけど、最近、不審者とか、要するに知らない人が家に訪ねてきて、子どもが1人のときにどうするのかなというようなこともあります。災害のときは結構周りの人のサポートもあるんじゃないかなという感じもするんで、子どもが1人のときにどうするか、ということが重要じゃないかと。ほんとうに何が起こってもおかしくない時代なので、特に子どもが1人でいるとき、私は不審者というのが一番問題じゃないかなと思っているのですが。</p>
高橋委員長	<p>はい。今、不審者というような話もありましたが、地震については、これは健全育成のほうで出ていた話ですので、一度戻したいと思うのですが、どうしましょう。地震など災害というようなキーワード、富士道委員のほうから出してもらいました。まずは、そういうふうに表記するという形でのよろしいですか。「あなたが放課後、地震など大きな災害があったらどうするか、家族と話して決めていますか?」。そうすると、それを放課後の現状のどこに持ってくるかということですよ。1番はそのまま、その2番目に持ってくるか、2番目は活動、学習のことですね。3番目は誰と過ごす、4番目がどこに遊びに行くという、どこに持っていったらいいですかね、皆さん。</p>
佐野委員	2番目はどうですか。
櫻井委員	ここの1番の3の選択肢、わからないというのが生きてきますよね。一緒にしますとね。
高橋委員長	ああ、なるほど。じゃあ今のお話で、地震など大きな災害の質問については、1番の次に入れるということでのよろしいですか。

	(「はい」の声あり)
高橋委員長	では2番に入れるということで。21番、25番の件もよろしいですよ。あと、放課後の現状と放課後の生活の希望・確認のこの並びについてですが、これはこの形でよろしいですか、皆さん、何かお考えがあれば。あえて離しているということで、いかがでしょう。
黒須委員	はい。黒須ですけど、やっぱり回答するほう側の立場に立つと、何でもたここで放課後の話に戻るのかなという印象を受けると思うんですけど。
高橋委員長	放課後、生活習慣、インターネット、最後また放課後という、なぜ、また放課後なのかなど。いかがですか、これは。先ほど古源委員のほうからは、逆に最後に意見・希望的なことが書けるということでいいんじゃないか、というご意見もありましたけれど。なかなか難しいですね。
佐野委員	佐野です。別のところですが、先ほどご意見がありました、8の誰かに相談というところは、親とか友達とかそういう、これはしているか、していないか、だけを知りたいという形ですか。それとも、悩みがあったときに相談をしている、相談をする人がいますか、いませんかというような設問ですか。
高橋委員長	今、放課後の現状と放課後の生活については、ちょっと詰まっているようです保留して、先に8番のほうが出ましたので、8番のところ、いかがですか、皆さん。
富士道副委員長	8番は、前のリーフレットでも同じような質問がなかったですか。もしこれも経年変化でとるならば、同じ質問でやらないと意味がないですよ。
櫻井委員	前々回ですね。26年のアンケートで。
富士道副委員長	確かありましたよね。
櫻井委員	単なる「相談していますか」という設問でしたね。
富士道副委員長	誰に、という選択肢は。
櫻井委員	選択肢はないですね。
古源委員	誰に、というよりも、相談するかどうか。はい、いいえ、大体話す、わからない、という選択肢ですね。
小山委員	小山です。設問を設定する意味で、誰に、というのはある程度あったほうがわかりやすいのかな、という気がするんですけども。
高橋委員長	いかがですか、皆さん。
黒須委員	黒須です。前々回のリーフレットのまとめ方は、「ご家庭ではお子さんの話を最後まで否定せずに聞いていますか」みたいなコメントでした。佐野委員も言ったように、誰に相談するか、家族なのか知人、友人なのか、ということまで聞けたら、またちょっと違う印象を与えるのかなと思います。

佐野委員	最初にご意見をいただいたのは富士道先生で、たしかそれで。STOP i tというアプリがあって、今度、健全育成の地区連合会の講演会でもやるのですが、これもちよっとこれと関係がありそうだなと思っています。
高橋委員長	17番ですか、アプリというのは、質問では。
佐野委員	8番と17番ですね。
富士道副委員長	8番については、選択肢4つを9で用意にするのがいいのか、その場合は家族、次は友達、知人、3つ目は学校の先生、4、その他ぐらいの4択で入れたらどうでしょう。
高橋委員長	いかがですか。どうぞ、羽田委員。
羽田委員	私もそういう形のほうがよいと思います。逆にいうと、例えば18番の「携帯・スマホを持つメリットは何だと思いますか？」は、例えばSNSでもいろいろ問題になっていて、悪いデメリットという影響だけではなく、逆にそういうものを通じて新たな人間関係を可能にして相談ができるといったようなこともあるので、それをクロス集計するってなかなか難しいと思うんですけども、そういうこともちよっと見えてくるのかなという気がします。そこは家族とか友人とか知人とか、何かそういう表現の中に入れて考えた方がいいかなと。
高橋委員長	8番については、今、皆さんうなずかれていたので、選択肢を4つにする、家族、友人、知人、その他という形でよろしいですかね。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	はい。ありがとうございます。では、次、どうぞ。
羽田委員	さっきの放課後の現状に戻るのですけれども、子どもの生活への希望とかそういうのに関係するのをどうするか、ということですが、私は放課後の現状の後ろ、後段に移したほうが比較検討する上でわかりやすいかな、という気がします。 それと、例えば4番、「あなたは放課後、どこに遊びに行くことが多いですか？」とありますが、友達の家へ行って勉強するとか、図書館行ったりとか、いろいろあるんですけども、じゃあ、2の学習塾とか習い事とか、設問の中の子ども教室とかっていろいろありますけれども、そういうところの関係、3番の設問の③、このあたりをどう整理したら、私自身がよくわからないので、皆さんのご意見をお伺いできればと。
高橋委員長	今、放課後の現状のところについて、皆さんのご意見をということでしたが、これもう少し整理ができるんじゃないか、ということではないかなと思うんですけど、いかがでしょう。富士道委員、どうぞ。

富士道副委員長	<p>小学校、中学校の子どもたちにとっての表現というのは、やっぱり修文が難しいんですね。例えば、小学生が部活はしませんし、中学生は遊ぶところよりも実は塾の方が多いということを考えますと、本来であれば小・中で分ける設問がいいかもしれません。一緒に聞くのであれば、もう活動とか遊びって全部1つにして、過ごしていますか、過ごし方を聞く、その中に遊びも入っていれば部活の、ちょうど2の設問がそうですね、遊びが入っていますからね。</p> <p>その際、次は過ごし方、どこの場面なのか。これは居場所と言っていますから、どこの居場所、どこのプレイスで行っているんですかというような、要するに内容ですよ。公園、児童館であったり、塾であったり、学校という部分もあるでしょうし、友達というのものもあるでしょう。</p> <p>ですから、そういうカテゴリーでの設問の仕方を1回整理した上でやったほうがいいのかと思います。つまり細かくやっていくのか、過ごし方とわざとぼかしながら設問の中で選択肢を決めていくのか、そこのチョイスだと思います。</p>
高橋委員長	<p>はい。いかがですか、皆さん。今の富士道委員の話の聞くと大分すっきりするのかなという、「過ごし方」というところで整理をする。どうでしょうか。そうすると例えば整理をすると、富士道委員、よろしいですか、どういう形が。</p>
富士道副委員長	<p>例えば2のところはどんな活動、ですから、まずどのように過ごしていますかというその過ごし方の項目を聞く、3つ目が誰と、という対人を聞く、次はそのどこで、という場所を聞くというようなカテゴリーで聞いてみるのはどうでしょうか。</p> <p>ただ、もう少し精密さを求めるならば、仮に遊びというのは2番で選んだ場合には、遊びの先がどこなのかということで選択肢を設けるとかという形で、どんどん下位の質問へ持っていくと、もっと締まってきて、集計したときにはわかりやすいデータが出るんです。ただ、あまりそれを始めますと学術論文の研究じゃないので、コメントのしょうがなくなってくるんです。いわゆるアンケートというのは、それは調査とか学問的研究のものではないので、そこであまり締めつけないけど、ぼやっとした中間値を求めていかないと、集計上も大変なことになると思うんですね。</p>
高橋委員長	<p>そうすると、今、富士道委員のほうからありましたが、アンケートですから、子どもたち、また保護者対象に、2番目のところで、対象がどこで過ごしているか、3つ目のところで対象、対人ですね、誰と、4つ目のところで場所という形で聞いていくというような構成にしていくということではいかがですか。よろしいですか。</p> <p>そうすると、まず1つ目が2番のところですよ。あなたが放課後というところが、これがどこで過ごしていますかとかそういうような質問にな</p>

	<p>ってくるということですか。</p>
富士道副委員長	<p>どんな過ごし方をしていますか。どんなふうに時間を使っていますか、と聞きたいですが、子どもにわかりやすく過ごし方をしていますかという表現。次は誰と過ごしていますかということですね。最後はどこで過ごしていますか。</p> <p>公民館で勉強やっているわけですし、図書館で遊ぶというのはよくないでしょうけど、でも、児童館で勉強やっても構わないし、児童館で遊んでも構いませんよね。いろいろな使い方があっていい。ただ、それをあまり細かくジャンル別にやっていくとかえって大変、苦しくなってしまうので、ただ、児童館ではどういうジャンルのパーセンテージで使っている子が多いのかとか、そういう重要な設問をつくってやるとまた見えてきますね。</p> <p>今回はそういうことが主のものではないので、それを混在すると、あまりにも広がってしまいますから、ある程度、私たちがこういうことを知りたいんだということを絞り込んだものを作っていかないと。</p> <p>設問は100も200もつくるのが本当はいいんですが、それは不可能ですから。</p>
高橋委員長	<p>今ので、すっきり、持ちましたね。そうすると2番、3番、4番のアンケートの文言が変わってくるということになりますね。</p>
佐野委員	<p>そうなってくると、4番、自宅というのは入れたいですね。</p>
高橋委員長	<p>どこで過ごしていますかというところで、自宅ですね。そうですね。古源委員。</p>
古源委員	<p>古源です。先ほどの現状のところの構成で、今の流れをあてはめて考えると、2番のあなたは放課後、どのように過ごしていますかというのを、1番にしていくのはどうかと思うんですね。というのは、1番のお家に誰かいますかと、1人でいるときに何かあったら、というのを離せないというのはもちろんなんですけれども、それを一緒にしておくとする、1番が誰かお家にいますかできなり危機管理となっちゃうのはどうかかなと思うので、何をどこでどのように、誰とどこでしていますか、お家には誰かいますか、危機管理という流れはいかがかなと思いました。</p>
高橋委員長	<p>いかがですか。いまのお話の形のほうが、答える側にとっては順々に答えやすいなという気がします。よろしいですか。</p>
	<p>(「はい」の声あり)</p>
高橋委員長	<p>はい。では、古源委員が言われたように順番変えていくということにしたいと思います。そうすると、放課後の現状のところについては、皆さん、よろしいですかね。事務局のほうで、今の内容で修正をつくれそうですか、放課後の現状については。</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。ありがとうございます。</p>

高橋委員長	そのほかのところでいかがでしょう。最初に言いましたが、質問を20問程度にするとベストではないかということで、まだ削れているのは1つです。質問を絞っていく、取捨選択していくというところでいうと、ダブっているものもあるんじゃないかと先ほどご意見もありましたが。
富士道副委員長	例えば9番の「あなたは一人で買い物に行くことがありますか？」というのは、何を聞きたいのか、私はよくわからない。1人で行くことがいいのかいけないのか、という価値観を聞いているのか。ただ、小学生だったら、低学年は親と行くのは当たり前でしょうけど、中学生が親と手をつないで買い物に行くのか。もうわかり切っていることを聞くのは意味がないのかなと思います。 商圏、つまりエリアを聞きたいんだったら、どこまで買い物行くかという、商売やる上ですよ。吉祥寺なのか立川なのかと聞くのは大変これは有用ですけど、このアンケートはそれを聞く商売に使うアンケートではありませんので、果たして1人で買い物に行く、行かないとか、回数を聞くというのは何のメリットがあるのかちょっとわからない。いかがでしょうか。
高橋委員長	これはどういう経緯で入ったのですか。
古源委員	古源です。確か、前段で食事のことが出てくるので、1人で買い物に行って、帰ってきて1人で食べるという構図の確認の意図と、あとは先生おっしゃったみたいに、盛り場、そういうところに1人でいきますか、という意図だったかなと思います。ただ、どちらにしてもはっきりしないですよ。
富士道副委員長	趣旨がよくわからないですね。
高橋委員長	そしたら9番は思い切って削除ということでよろしいですかね。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	はい。そうすると2つなくなりましたか。同じような見方をしていたときにいかがですか。関連がよくわからないなとか、このアンケートに趣旨に沿っていないんじゃないか、とか。どうぞ。
古源委員	すいません、古源です。ちょっと戻るんですけども、8番の先ほどの悩みがあるときに誰かに相談していますか、というのは、している、していない、の設問を残さずに、4択にするということですか。
高橋委員長	先ほどは4択でした。
古源委員	していない、も残すんですか。
高橋委員長	そこは確認していませんでしたね。

古源委員	前々回のリーフレット、ご家庭の教育力の分析で、子どもが誰にも相談をしていませんという割合が17%で、保護者のほうで相談をしていません、されていませんというのが2.8%というところで、多分そこを中心に聞いていたようですね。そのコメントで、ご家庭でお子さんの話を最後まで否定せずに聞いていますか、というものを発信していますので、していないというのを残したほうがいいのかと思います。
富士道副委員長	それはもう選択肢として誰にとというのは挙げておく、最後にしていないというのを受ければいいのかと思います。まず友達・知人とか、親、家族、学校の先生、その他、最後にしていない。
高橋委員長	そういうことですね。事務局、可能ですか。
田中児童青少年係長	今の状況だと5択ですので、どこかを合わせていただいて。
高橋委員長	元は家族、友人、知人、その他だった。4択に加えて、していないという話が入ってきましたから、そうするとどういうふうに組むか。
富士道副委員長	その他というのは知人でもない、友人でもない。近所のおじさん、おばさん、それと他には。
小山委員	私が一番思い浮かんだのがSNSの匿名の相談。
富士道副委員長	それですよ。
高橋委員長	どうでしょう。問題数を増やせば、すっきりいくんでしょうけど、増えてしまうと、ということもあります。
富士道副委員長	例えば19番、誰と過ごしたいと思っているかと。実際、今、誰と過ごしていますかという事実を聞いて、さらに希望を聞く必要性はあるのか、と思ったんです。つまり、子どもたちは過ごしたいと思っているからその人たちと過ごしているんじゃないか。希望と現実と違うというその乖離を調査したいならばそれでまたやる方法、手法はありますけど、少しでも減らしたいのであれば、あんまり必要ないものは削ったほうがいいのか、と思います。
高橋委員長	これ、確か入ったのは、先ほど富士道委員が言われた乖離を見るというところに入ったのかなという気はしたんですが、質問の数も限られていますし、何を優先するかとなったときに、これが必要かという話になりますね、そうすると。19番は削除してしまえますか、それで。
富士道副委員長	だから、3番と19番をきちんとした乖離を見たい、クロスをかけてどうしたいのかとか、そこまで分析をする必要があるかどうかなんです。つまり通常、現状は友達と過ごしているんだけど、本音はぜひ家族と過ごしたいと思っているような答えが出てきたら、それはそれでまた私は必要だと思うんです。そこをとるというのであれば。子どもたちって本音は思っているんです。もっと家族で過ごしませんというコメントを書ける

	<p>んです。ただ、あんまり差が出てこないとすると、意味なくなってしまうんですけど。過ごしたいと思っているから、友達と過ごしていますよって、内心は言えないんですけど。</p>
佐野委員	<p>ちょっと話戻して申しわけないんですけども、8番ですね。これ、選択をする項目が多いとだめだということなんですか。</p>
高橋委員長	<p>8番ですね。5択になってしまいますから。マークシートが4択ですから。</p>
佐野委員	<p>なるほど。そうすると誰かに相談していますか、家族、友人、学校の先生、していない、とかというんじゃないんですか。</p>
小山委員	<p>ですから、さきほどSNSの問題があるのかなという。</p>
佐野委員	<p>その他も入れると。</p>
小山委員	<p>すいません、17番の関係で何か整理ができないかな、というような気がするんですけども。17のその『匿名でなやみ相談やいじめ等の目撃報告ができるアプリ』について、あなたの考えに近いのは?という、ここで何か悩みの相談という表現がありましたよね。この辺は整理できないかなと思ったんですけども。</p>
富士道副委員長	<p>これ、17に入った経緯って何ですか?</p>
田中児童青少年係長	<p>はい。これは単純に18番のメリット、デメリットというところで、こういったものがあるかという認識がどうか、というところの一例として入れているだけです。18番の派生でお考えいただいたほうが。</p>
富士道副委員長	<p>17番はなくていいなと思います。こういうアプリってどうなんですかかって聞くのであれば、アプリについてきちんと説明を書かないとだめだと思います。メリット、デメリット、こういうのがあるんですが、あなたはどう思いますか、ではないので、目撃報告ができるアプリって読んだだけでよくわからない。必要があるかないかという価値を聞くのはあんまり意味がないなと思っているんです。</p>
高橋委員長	<p>そうすると17番はどうしましょう、削除しますか。例えば17番をなくして、その前後の、前のところから15、16、18と聞いていると、答える側はそんな違和感はない気はします。</p>
富士道副委員長	<p>17を消すかわりに、先ほどの8番はしている、していない。している場合には、という選択肢を次に入れておけばいいのかなと。その他、SNSも含めて、全然関係ない第三者に相談しているのがこんなにあった、というのが出てくるとまたこれは1つの大きな課題になります。課題なのかどうかわかりませんが。実態としてわかりませんから。</p>
高橋委員長	<p>17番については今のお話で削除して、8番をしている、していないのところで追加するということですか。</p>

富士道副委員長	選択肢をもう1つ作って、していますかという質問、している人については、誰に、という質問。
高橋委員長	よろしいでしょうか。では、もう1回8番、皆さんでちょっと確認しましょうか。そうすると8番です。あなたは悩みがあるとき、誰に相談していますか、している、していない。している場合、誰にということ、さっき出ていた家族、友達、それから先生、その他。
黒須委員	すみません、黒須です。その他の中に括弧つけて先生も書けるような感じで、SNSとか先生もその他の中に書ける形で4問にする、丸を4つにするという方法もあるんじゃないかなと思うんですけど。多分、悩みがあったときに、先生に相談しようと思う子って今、少ないんじゃないかなとか思って。(笑) まず、友達じゃないかなって何か思うんですよ。先生が何を解決してくれるんだってまず思っちゃうと思うんですけど。
小山委員	親と先生、どっちが高いか見たいな。両方残せると。
黒須委員	両方残せるとね。
小山委員	残せると、親と先生どっちに子どもたちが信頼しているのかというのは見えてくる。
黒須委員	見える。そういうことにもなりますね。
高橋委員長	そうすると、その他というところでいいですか、最後は、4つ目は。よろしいですか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	小学生、中学生、保護者の方と書き方は変わっちゃうと思いますが、その4つということでもよろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	わかりました。そうすると、これ、削除が、17番が削除になりましたので、これで削除3つということ、3つ削除したことになります。
黒須委員	黒須ですけど、その現状、現実に今、自分の周りでいじめが起きていたり、何かあったときに、こういうリーフにQRコードとかがついていたら、そこにすぐ自分は連絡ができるみたいなの、何かそういうものがあつたらすごい子どもたちほっとするところもあるんじゃないかなと思います。この質問自体の形はちょっと違う、ずれているかもしれないんですけども、何かそういう悩みを持っている子が、すぐにそういう相談できるみたいなの、そういう窓口があつたらいいなと思うので、何かこの質問の形を変えてつなげる、連絡場所にすぐにつなげるようなアプリじゃなくても、QRコードみたいなのをこのリーフにつけられたらいいなと思うんですけど。
高橋委員長	リーフ作成時に紙面の中にそういう相談先につながるようなものがあるといい、というご意見ですね。

黒須委員	はい。こんなので、こういう質問、現実に今、自分の周りにあるいじめとか何かそういう子どもたちの間で問題のことで悩んでいる子どもたちが、ここから少しでも解決の方向に進むようなものがあったら、と思います。
富士道副委員長	リーフレットの中にQRコードを入れて、そういうコードがホームページですぐぱっと飛んでいける、スマホならばぱっとあければすぐ飛んでいきますので、そういう形のものをに入れていく必要はあるかもしれないですね。
黒須委員	一応、子どもたちにはいじめの相談窓口みたいなちっちゃい名刺サイズのやつは配られてはいるので、そこに連絡すればいいようにはなっているんですけど、ただ、いつもすごい小さいなと思っているんです。小さいからわかりやすいというものもあるかもしれませんが、ちっちゃいので、逆にどこに行っちゃったかわかんない、というのはあります。毎年1回か2回ぐらい、子どもたちには配られているみたいですが。
高橋委員長	でも、そういう配られているものもあるけど、あとプラス、黒須委員のほうとしては、このせっかく冊子をつくるんだったらその冊子の中にそういうバーコードみたいなもの入れられないかというお話ですかね。事務局に聞いてみないとわからないですが、そういうことは可能でしょうか。紙面の掲載上は。
田中児童青少年係長	はい。それは可能です。
高橋委員長	じゃあ、それも入れるということで。 次に、先ほど富士道委員のほうからありました、19番、これをどうするかということなんですが。
富士道副委員長	要は、現状としては誰と過ごしていますかということと、そういう希望、期待みたいなことを載せるかどうかですよ。
黒須委員	項目を減らすのであれば、カットしていいんじゃないですか。
高橋委員長	私も、ここはカットしてもいいかなと思っていたんですが。よろしいですか、じゃあ、削除ということで。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	ありがとうございます。そうすると、21問。やっぱり中途半端なんですかね。事務局にお聞きしたいんですが、設問の数として。
田中児童青少年係長	質問数は大丈夫です。ただ、4項目削らせていただいた上で、1項目プラスになっていますので、22問ということになっています。
高橋委員長	質問として削れるようなところが皆さんで今まで話した中ではなさそうなので。じゃあ、今22問ということなんですが、あと全体的に見て何かお気づきのところとかありますか。

小山委員	質問ですが、23番の「放課後、児童館や図書館、公民館を何時まで使いたいですか？」ってありますけども、何か例えば集会室を申請して借りる場合もありますよね。この質問の使うは、どのレベルで言っているんですか。よくわからないんですけども。
高橋委員長	いいですか、事務局。
田中児童青少年係長	はい。あくまでもこのアンケートといたしましては、居場所という位置づけでございますので、滞在できる時間、ということでの聞き方になってございます。
高橋委員長	よろしいですか、これで。そのほかいかがでしょうか。古源委員、どうぞ。
古源委員	今、小山委員がおっしゃったみたいに、公民館などを何時まで使いたいですか、という中で、小学生は帰宅しなくちゃいけない時間が出てくると思うので、そことの兼ね合いで小学生向けはちょっと違ってきますか、質問が。
高橋委員長	どうでしょう、事務局のほうは。
田中児童青少年係長	設問といたしまして、選択肢からどこを削るということでご指定いただければ削れるかなと考えてございます。
高橋委員長	逆にある程度そういう方向、こちらで示さないといけない、示したほうがいいということですね。そうすると、今、古源委員が言われたように、小学生対象のものであれば小学生用のその時間というような表記の仕方に変わってくるということですよ。そこは事務局の方でお願いします。
古源委員	はい。それと、使いたいですか、使えたらいいと思いますか。細かいことなんですが。
高橋委員長	皆さんどちらのほうがりっくりいきそうですか。表現でいったら使えたらいいか、ですね。 ただ、正直言うとこの設問が必要かどうかというのは疑問なんです。夜8時まで晩御飯食べないで、というのは違うんじゃないか、居場所はお家じゃないですか、と本当は校長としては言いたいんですけど。今、現状としては確かにいろいろな働いていらっしゃる方がいて、その影響で子どもが外にいることって本当にいいのだろうか、とか、じゃあ希望があれば夜10時までとかも認めるのかどうか、とか。それは防犯だとか健全育成条例とかを含めていろいろなものとの関係になりますし、補導の基準は警察で決まっていますから。しかし、こういう形で何時まで使いたいのと聞くとするのは、私はちょっと悲しいなという気がしているんですけども。これは感想です。

大澤委員	すいません、大澤です。今、4時半になるとチャイムとか鳴るじゃないですか。例えば使いたいですとかになった場合に、その時間を過ぎてもしこの場所にいていいということになってしまう。今現在使えるわけじゃないですけども、なっていつてしまうんでしょうか。
高橋委員長	このアンケートは、結果で使っていいとかそういう方向に、というものではないです。あくまでも意識、子どもを対象者の意識を知るという目的ですから。ただ、今、言われたようなことで期待感を持たせてしまうとかそういうところはあるのかなという気はしています。学校側の立場から言えば、もう一度ちょっと23番について皆さんで考えたいんですけど、削除もあるのかなと。いかがですか。
小山委員	図書館は中学生が使えると便利な気がするんですけどね。
大澤委員	ただ実際、図書館にそんなに中学生がいるのかどうか、わからないのがあります。何か資料を調べるときも、今は基本、図書館に行って何かを探してというよりもインターネットで調べて、ある程度アドレスとかも指定されて、ここのやつを見て調べてきなさいというのが、すごく多いので、うちの子どもたちを見ていると図書館に行くということがほとんどないのが現状なんです。もうちょっと行って勉強とかしてほしいという思いはあるんですけども。実際問題として何か家でできることがすごく多くなってしまっているんで、図書館に行くのかなというのはちょっと……。
小山委員	昔は夏場にエアコンが家庭にないから図書館に行って勉強、とかいましたけどね。
古源委員	1人の中学生が、お友達と勉強したいとかいった場合の居場所がないというものがここに反映されてくるのかな、と思うんですけども、実際問題、公民館にフリースペースがありますよね、ロビー。あそこには早い時間に小学生、それからちょっと遅い時間に中学生がいる。昼間、高齢者がいる場所に夕方以降、子どもたちがいるという姿はありますので、そういう意味でも、何時までというのはちょっと問題だと思うんですけども、やっぱり子どもたちが何かをする場所を求めているのかなということもあります。それをどうやってすくい上げるのか、という質問になっていくのかなという気がします。
富士道副委員長	それで見れば20番がそうですよね。
古源委員	そうですね。
富士道副委員長	そこで酌み取れるのであれば23、つまり時間設定を聞く必要があるかどうか。場所だけであれば20番でいいでしょう、という話になるんじゃないかと思うんですが。
古源委員	24番に自由筆記で書くほうがいいかもしれませんね。

高橋委員長	これは24番が要望で入ったから、その前振りとして23番が入ってきたとか、そういうことですか、事務局。
田中児童青少年係長	そうですね、24番が後から追加になっていますので。
高橋委員長	そうですね、校長会からの要望でその前振りで入ってきたのかなという気がすごくしていたものですから。そうするとでも23番についてはあえてこの質問で時間を聞く必要は、皆さんの意見を聞いているとないのかなと、そういうことでよろしいですか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	では23についてはなしということで。アンケートに関しましてきょうはいろいろ質問の内容について、また取捨選択をさせていただいたんですが、よろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	では、事務局のほうは今の内容で修正できそうですか。
田中児童青少年係長	はい、ありがとうございます。
高橋委員長	わかりました。ありがとうございました。アンケートのほうは今、ご意見いただいた内容を事務局でまた修正してもらうことになります。3月の終わりに青少年問題協議会の本体の会議があります。その会議で最終案のテーマについて報告をさせていただくことになります。報告をして承認を得るということになりますが、その際、また最終的な構成ですとか、あと本体の会議への説明ということがあるんですが、その部分につきましては委員長のほうに一任をさせていただくということでよろしいでしょうか。その確認を最後にさせていただければと思うのですが、よろしいでしょうか。
	(「はい」の声あり)
高橋委員長	ありがとうございました。じゃあ委員長のほうで修正また説明等はさせていただくようにいたします。協議のほうはこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。事務局、事務連絡はありますか。
田中児童青少年係長	はい。本日の会議の内容を反映しました先ほどの修正版でございますけれども、3月初旬までには皆様のお手元に届くように郵送等をさせていただければと思っております。その上で3月27日火曜日に開催される第2回の本体会議のほうで専門委員長のほうから、本日までの会議内容とアンケート案についてご報告をいただくという形になります。 なお、保護者向けと小学生向けの作成については本体会議のほうで、どこまでご説明をするか、というところも合わせて、専門委員長へご一任いただいた範囲内でご相談させていただき処理する、ということだけ、事務局としては確認をさせていただければと思うのですが、その点はよ

	ろしいでしょうか。
高橋委員長	よろしいですか。
	(「はい」の声あり)
田中児童青少年 係長	ありがとうございます。事務局からは以上でございます。
高橋委員長	<p>では今の件、皆さんにご確認いただいたということで、ありがとうございました。それから、リーフレットができた後の話なんですが、配布をすることになります。その配布先についてなんですが、例年は学校と小・中学校、町会、自治会、健全育成等に配布をしていると思うんですが、それ以外に配布をしたほうがいいのかと思うようなところがありますでしょうか。数に限りがありますので、もしこの場でここにも配布をしたほうがいいのかというところがあれば、参考配布だけでもできないか、事務局に検討してもらおうかと思っております。</p> <p>よろしいですか。わかりました。それでは第3回の専門委員会をこれにて終わります。ありがとうございました。</p>